

**政府機関(森林技術総合研修所)
の移転に関する提案企画書**

平成 27 年 11 月

岩手県

北上市の地理的条件 (北東北の十字路／交通のアクセス性)



北上市までの交通アクセス

●東北新幹線(最速)

東京⇄北上……2時間24分
 仙台⇄北上……49分
 名古屋⇄北上……4時間17分
 大阪⇄北上……5時間24分

●飛行機

札幌⇄花巻……55分
 名古屋⇄花巻……1時間10分
 大阪⇄花巻……1時間25分
 福岡⇄花巻……1時間55分

●東北自動車道

仙台⇄北上……1時間35分
 東京⇄北上……5時間35分

●秋田自動車道

秋田⇄北上……1時間30分

古くから「交通の要衝」として栄えてきた北上市。

国道4号・JR東北本線の南北幹線と国道107号・JR北上線の東西幹線が交差して市の骨格が作られました。東北新幹線・東北縦貫自動車道・東北横断自動車道秋田線などの高速交通網が整備され、北東北の十字路として交通の利便性は高くなっています。

また、首都圏や北海道はもとより、南には仙台港、東に大船渡港、西の秋田港と環太平洋を結ぶ主要港湾のアクセスにも便利です。

久慈市への交通アクセス

東京駅・久慈駅間の最短乗り継ぎ時間 **3時間58分**（新幹線・リレーバス）

| | | | | | |
|------|---------------------------------|-----|--------------|-----|--------------------|
| 東京駅 | 東北新幹線・2時間13分 | 盛岡駅 | 東北新幹線 25分 | 二戸駅 | 新幹線リレーバス 1時間10分 |
| 仙台駅 | 東北新幹線・44分 | | | | |
| 秋田駅 | 秋田新幹線・1時間40分 | | | | |
| 新青森駅 | 東北新幹線・25分 | 八戸駅 | JR八戸線・1時間44分 | | |
| 盛岡駅 | JRバス・2時間42分 / 岩手県バス・2時間22分 | | | | |
| 宮古駅 | 三陸鉄道北リアス線 1時間35分 | | | | |
| 東京駅 | 岩手県バス 高速夜行バス(岩手きずな号) 11時間05分 | | | | |



【補足】

研修所を岩手県へ移転した場合、研修講師の交通費、宿泊費の支出増、本所と林野庁の打ち合わせ経費の増が見込まれますが、当該掛かり増し経費に対して、自治体として財政的支援を行うことは想定しておりません。

また、研修生についても移動費等が増加する場合がありますが、講師同様に財政的支援を行うことは想定しておりません。

なお、研修講師の宿泊が定期的に見込まれる場合や研修生の受入が決定した場合にあっては、宿泊研修施設として想定している施設における宿泊費を低廉な契約料金とすることなども検討します。

<参考：宿泊付き研修施設として想定している施設の料金>

- ・ 北上市ふるさと体験館 1泊2食付き 6,000円～
- ・ 久慈市新山根温泉べっぴんの湯 1泊2食付き 7,020円～
- ・ " 平庭山荘 1泊2食付き 7,550円～

【豊富な森林資源を有する久慈地区】

久慈地域の森林は、約3分の1をアカマツが占め、全国的に深刻となっている松くい虫の被害が及んでいない、国内でも貴重なアカマツ林を有している。



南部アカマツ振興センター（事務局：久慈地方森林組合内）との連携による、良質なアカマツ林資源を活用した先端かつ質の高い研修（木造建築・住宅資材の基礎知識習得、地域の木材利用推進に関する現場体験等）の実施が可能である。



アカマツ人工林森林施業技術交流会

広葉樹は森林面積の約50%を占めており、この豊富な広葉樹資源を活かした木炭・しいたけの生産は全国有数である。全国第1位の生産量を誇る木炭は、品評会において林野庁長官賞を受賞する生産者を輩出するなど、その品質は岩手木炭として市場で高い評価を得ており、木炭づくりを体験実習に取り入れることができる。



製炭窯



しいたけは、原木・菌床どちらも生産が盛んであり、原木栽培においては林野庁長官賞や農林水産大臣賞を菌床栽培においては日本農業賞特別賞を受賞する生産者を輩出するなど木炭同様、市場から高い評価を得ており、生産現場の体験視察研修が可能。



市の南西部に位置する山形町の平庭高原一帯には、白樺の木々が群生し、**白樺林**や白樺群落を形成しており、その数は31万本を越え、「日本一の白樺群生地」である。

早春の時期には、樹液を採取し飲料としての商品化とともに、「食」や「観光」の商品化に官民が連携し取り組んでいるところであり、宿泊研修施設の平庭山荘に近接していることから樹液の採取体験も可能である。



平庭高原の白樺林



白樺樹液採取

【補足】

○誘致拠点から半径5km圏内の現地実習林

<久慈地区>

- ・ 久慈平庭県立自然公園（16.93km²。シラカバ林、レンゲツツジの群落が展開）
- ・ 保護林（権現シラカンバ林木遺伝資源保存林）
- ・ 施業中の森林（地域の大規模所有者が森林経営計画（1,430ha）を策定し施業中）
- ・ 暖温帯系広葉樹（ナラ類など）
- ・ 冷温帯系針葉樹（アカマツなど）
- ・ スギ民有林（3,158ha）、ヒノキ民有林（14ha）、アカマツ民有林（12,271ha）、カラマツ民有林（1,928ha） ～民有林のうち33%が人工林～

<北上地区>

- ・ スギ人工林（26ha）、アカマツ人工林（26ha）、カラマツ人工林（54ha）

※ 上記現地実習林へのアクセスに関しては、林道、作業道などが適切に管理されており、林道等の運転が不慣れな方でも、中型バスでの乗り入れを安全に行うことができます。

また、近隣に総合病院である県立中部病院・久慈病院のほか、国保病院や内科系、外科系の医療機関を有しており、実習中の方が一の病気やケガにも対応が可能です。

○5km圏内ではありませんが、県内には、早池峰、栗駒国定公園が存するほか、北上・久慈の両地域から1時間半程度の場所に自然休養林を有しています。

【補足：主な森林・林業・木材産業の事例】

次のような誘致先拠点からバスで半日日帰り可能なエリアを有しています。

<久慈地区>

①森林見学

- ・ 南部アカマツ振興センター（事務局：久慈地方森林組合）
製造販売部門（森林組合、製材工場）、調査研究部門（大学、研究機関）、普及調整部門（県、市町村）が連携したアカマツの高付加価値化等に取り組む組織であり、ブランド化や販売体制基盤の整備に取り組む体制の見学が可能

②木材利用

- ・ 木質バイオマスエネルギー供給施設（H28以降建設予定）
最新のバイオマスエネルギー利用等の知識習得が可能

<北上地区>

①森林見学

- ・ 企業の森（北上市和賀町）
株式会社東芝、県及び北上市が「企業の森づくり活動」に関する協定を締結し、森林管理や森林を活用した野外体験学習会を実施しており、官民連携による森林整備活動への見学、参加が可能

②木材産業見学

- ・ 木材関連産業の集積
国産材100%合板の製造会社や、全国規模の勢至会社など、関連産業が集積し、先端の加工現場の見学が可能。

【木材関連産業が集積する北上地区】



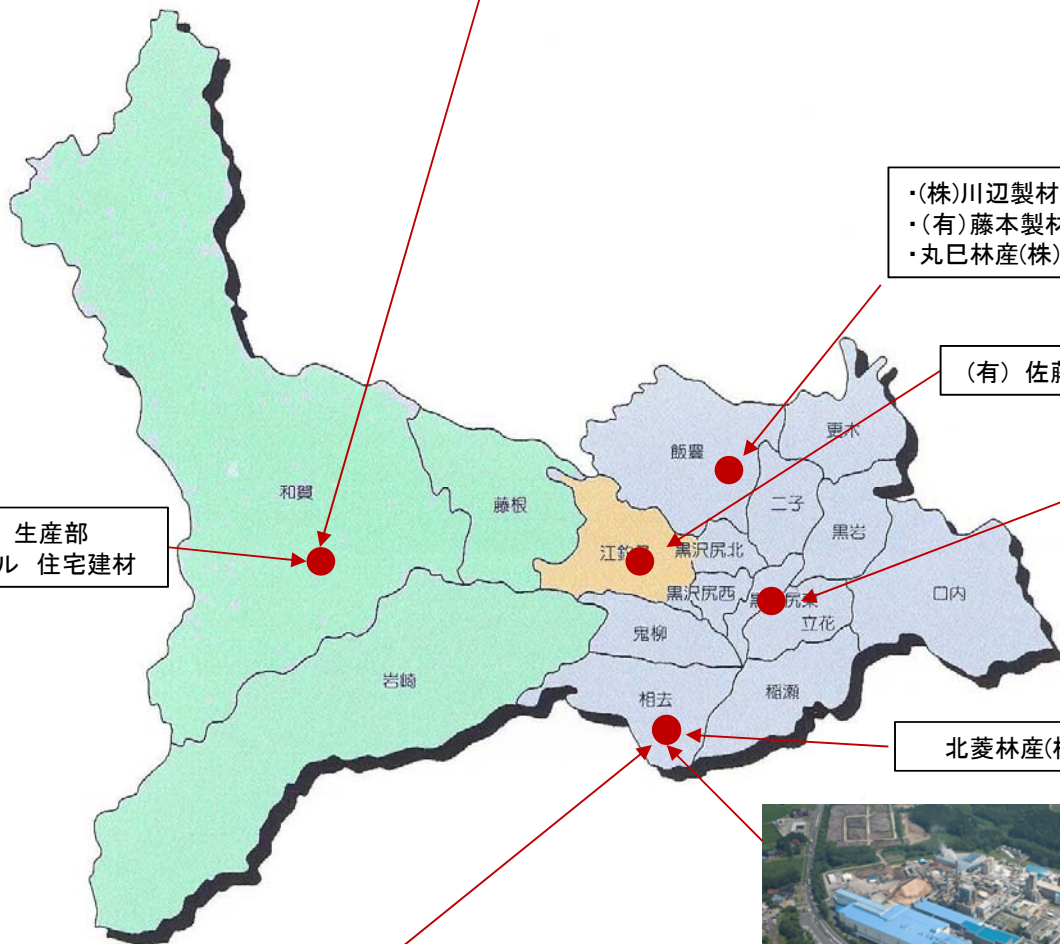
北上プライウッド(株)



県産材集積



合板製品(国産材100%)



(株)北洲 生産部
北洲マテリアル 住宅建材

・(株)川辺製材所 製材製品
・(有)藤本製材所 製材製品
・丸巳林産(株) 木材チップ製造

(有)佐藤商店 製材製品

北上市森林組合

北菱林産(株) 木材チップ製造



佐藤木材工業(株)
東北北上支店



東北を中心に
プレカット部材を供給



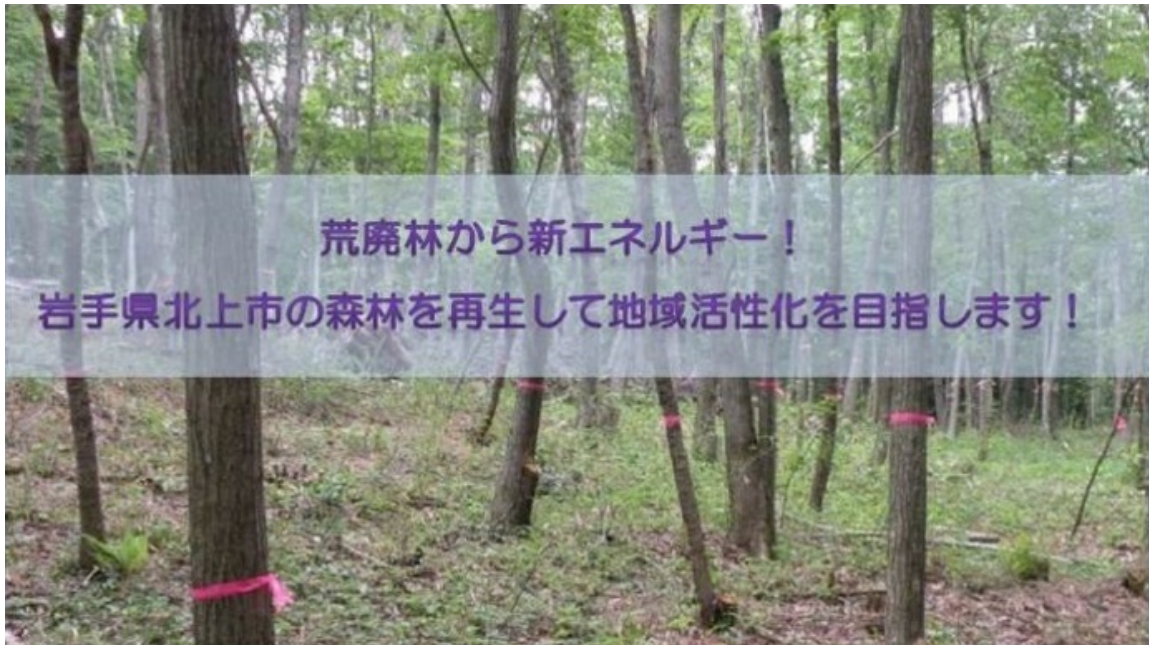
三菱製紙グループ 北上ハイテクペーパー(株)



紙製品
東北木材100%
(岩手80%・秋田20%)

【森林技術総合研修所】

民間活動「きたかみ森援隊」 (低炭素・循環型社会の構築)



北上市の施設概況 (研修施設等)



北上市役所 和賀庁舎
JR北上線「横川目駅」から約0.8km
(「北上駅」-「横川目駅」所要時間18分)



ふるさと体験館(50名宿泊可)
JR北上線「横川目駅」から約1.9km
(北上駅まで送迎対応可能)



多目的研修室



宿泊室

1泊2食付き 6,000円～
(10部屋×5名)



多目的ホール



食堂

★和賀町の「企業の森・東芝」
(株)東芝、岩手県、北上市との協定
(2009年9月11日締結)
・「企業の森づくり活動に関する
協定書」に基づき、ブナなど
広葉樹の植樹等の森林整備を
進める活動。

★ふるさと体験館の南側山林に
5年間で4.5haに9,000本植林



久慈市の施設概況（研修施設等）

1 宿泊付研修施設等活用

○新山根温泉べっぴんの湯：宿泊施設（研修室）

※宿泊施設：和室 10 室、洋室 1 室（40 名宿泊可）[1泊2食付：7,020 円～]



外観



研修室(40 畳)



研修室(30 畳)

○平庭山荘：宿泊施設（研修室）

※宿泊施設：和室 8 室、洋室 1 室、コテージ 10 棟（270 名宿泊可）[1泊2食付：7,550 円～]



2 研修施設として活用が可能な施設等

○山形文化交流センター（おらほーる）：研修室、ホール（394 席）



外観



ホール



研修室

閉校した校舎の活用

○久慈市立山根小中学校（山根地区：平成 26 年 3 月閉校）

○久慈市立繫小学校（山形地区：平成 23 年 3 月閉校）

※繫小学校は平成 13 年築で、入浴施設なども有する新しい校舎であり、簡易な改築により、研修施設への流用が可能です。なお、改築費用の一部について、自治体としての支出も検討可能です。



森の巨人たち百選(林野庁)／ 北上市和賀町仙人「姥杉」



北上市 KITAKAMI CITY
〒024-8501 岩手県北上市芳町1-1
TEL:0197-64-2111
メール: kitakami@city.kitakami.iwate.jp



久慈市
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号
TEL:0194-52-2111
メール kujishi@city.kuji.iwate.jp

林業・木材産業再生構想（イメージ図）

- 強い林業の再生に向け、路網整備や人材育成など集中的に整備し、外材に打ち勝つ国内林業の基盤を確立
- 北上市の地理的条件を活用した木材の安定供給体制（県産材の効率的な加工・流通構造）を構築するとともに、木材利用の拡大を推進
- 山元へ利益を還元するシステムを構築し、儲かる林業を実現
- 林業・木材産業を持続可能な地域産業として再生（強い木材産業を確立） ⇔ 木材自給率 50%、環境負荷の少ない循環型低炭素社会の実現

＜木材の安定供給力の強化を軸とした戦略により雇用も含めた地域活性化を図る＞

川上

循環

＜持続可能な林業構造の確立＞

低コスト作業を確立する路網の普及
作業道・路網整備（私有・国有林一体）

人材育成（フォレスター・現場技術者・
オペレーター等体系的な育成制度を整備）

生産性の高い林業機械の導入・普及
（補助制度等見直し）

施業の集約化（集約化・搬出間伐
へ予算集中、施業プランナー育成）

地域の森林管理の主体として
・森林組合の役割明確化
・民間事業者の育成強化

- 施業の集約化を促進（低コスト化）
- 搬出間伐へ転換（資源有効利用）
- 原木の安定供給体制の整備

川中

＜効率的な加工・流通体制の整備＞

- 流通・生産の効率化を図る内陸部への企業集積
・工場の大規模化、複数の工場の連携による生産効率化
- 大ロット需要先への供給体制の整備
・流通コストの低減、木材安定供給力の強化
- 県林業技術センター等研究開発機関との連携

- 東日本大震災からの復興に向けた取組
・森林・林業の再生を図り、復興に向けた木材等の活用
・山村や沿岸地域の雇用創出・事業拡大に寄与
・環境負荷の少ない循環型の低炭素社会づくりに貢献

＜森林の多面的機能発揮、制度改革＞

適切な森林管理（施業）の確保
（森林計画の見直し／温暖化対策）

伐採・更新のルール整備
（循環利用による伐採、更新対策）

管理放棄地に対するセーフティ
ネットの確立（公的森林整備）

私有林への指導やサポート
（林業施策への貢献）

山元へ利益を還元するシステム
を構築（やる気ある事業体育成）

県産材の加工・流通構造の改革（低コスト化）

（小規模、分散・多段階 ⇒ 大規模・効率的な加工・流通体制の構築）

川下

＜木材利用の拡大＞

【県産材住宅の推進】

- ・在来工法など住宅の県産材シェア（材積）を向上
- ・建築士協会等と連携（設計段階から木材利用促進）
- ・大工、工務店など木造建築の担い手に対する支援

【公共施設等への木材利用の推進】

- ・公共施設における木材利用の義務付け

【木質バイオマス利用の促進】

- ・県産材へ原料転換、間伐材・被害木等の製紙・パーティクルボード・バイオマス利用の推進
- ・環境貢献度アピール

【新規需要の開拓】

- ・木材利用の多角化や新たな木質部材開発に向けた研究・技術開発の推進
- ・**木材製品の輸出拡大に向けた取組を推進**

<参考>

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※ 記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別紙1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

| | |
|---|--|
| ① 道府県等の提案団体の名称 | 岩手県 |
| ② 関係市町村の名称 | 北上市、久慈市 |
| ③ 誘致を希望する政府関係機関の名称 ※まとまりのある一部分の組織・機能の移転や地方拠点の設置を希望する場合はそのことが明確に分かるよう記載してください。 | 森林技術総合研修所 ○本所機能(八王子市): 森林研修の拠点として北上市への誘致を希望 ○実習機能(林業機械化センター等): 実習の現場として久慈市への誘致を希望 |
| ④ 誘致先の予定地 ※住所、面積、交通アクセス等当該予定地の現況を記載してください。 | ○北上地区 北上市役所和賀庁舎、ふるさと体験館の活用 東北縦断・横断自動車道の結節点であり最寄りにIC【北上金ヶ崎、北上西】が存在。 また、東北新幹線北上駅、いわて花巻空港が近く、交通の便が良い。 ○久慈地区 山村文化交流センター(おらほーる)、平庭山荘の活用 三陸縦貫自動車道の整備により、交通アクセスが格段に改善される。 また、東北新幹線八戸駅、三沢空港からのアクセスも可能。 |
| ⑤ 誘致の必要性・効果 ※以下のア、イの内容について必ず記載してください。 ア 地方版総合戦略の重要な要素であること。 当該地方公共団体の総合戦略の重要な要素と、誘致する機関の業務・機能とが密接に関連し、総合戦略の目標達成にとって当該機関の移転が重要な要因となるものであること。また、例えば研究機関の移転であれば、特定分野の産学官の研究集積又は当該分野の関係産業の集積がなされている等、現状において一定の強みを持つものであること。(併せて地方版総合戦略の案の該当部分を参考資料として添付してください。) イ 国の機関としての機能確保 当該機関が現在地から当該道府県に移転することにより、国の機関としての機能が確保でき、運用いかによってはむしろ向上することが期待できること。(例えば、移転により当該道府県以外の道府県の利便性が悪化し、国全体としての機能が低下しないか、移転により現在機能が集積していることの強み・メリットを損なうことにならないか等の問題点があったとしても、それを上回るだけの移転のメリットがあるか、など。) | ア 岩手県ふるさと振興総合戦略では、10のプロジェクトの1つに、「強い農林水産業振興プロジェクト」を掲げており、特に森林県岩手のポテンシャルを生かした林業振興に力を入れることにしている。 岩手県では、林野面積全国第2位、林業算出学全国第5位と豊富な森林資源を背景に、伐採から、製材・加工、出荷までを一貫して行うことのできる自然環境と産業集積が進んでいる地域であり、このようなプロセスの実地研修なども含め、良好な研修を実施することが期待できるもの。 木材関連産業の集積の進む北上市では、生産からマーケティングに至るまでの幅広い総合的な研修施設(八王子市本所)の誘致が適している。 また、木材生産の現場である久慈市では、より実地的な研修施設(例: 林業機械化センター)の誘致が適している。 イ 北上市は、東北新幹線北上駅、東北自動車道北上IC、花巻空港に近く、あらゆる方面からのアクセスが良好なため、移動に係るロスを最小限に抑えることができる。 また、市内に事務室や研修室、宿泊研修施設などを全て既存ストックで準備することが可能であり、一貫した研修体制を備えるため、研修機関としての機能向上が見込まれる。 また、久慈市は関東地方に比べ、夏冷涼な気候なため、省エネ環境のもとで研修を実施することが可能であり、環境への影響も最小限に抑えることができる。 |

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※ 記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別紙1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

| | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|----------|--------------|-----------|--|--|
| <p>⑥ 誘致のための条件整備の案 ※少なくとも、以下のことについて、誘致自治体による協力のあり方を含めた条件整備の案を示してください。 ア 施設の確保等 移転先の施設の確保・設置のための具体的な条件整備の案を示すこと。 イ 職員の居住環境確保への協力 職員の居住環境の確保について、国又は独立行政法人等に協力すること。</p> | <p>既存ストックを有効活用することが可能であり、新たな初期投資を可能な限り抑制する。</p> <p>ア 施設確保 北上市 :市役所和賀庁舎(事務室・研修施設両面で使用可能) ・ふるさと体験館(宿泊研修施設として使用可能) 和賀庁舎に関しては無償貸与も検討。 久慈市 :山村文化交流センターおらほーる(研修室、ホール、図書コーナー、創作工房、講座室) :平庭山荘(会議室、宿泊施設、コテージ)</p> <p>イ 職員の居住環境確保への協力 いずれの地区についても、職員宿舎等に空きがあり、移転決定の場合は、全面的に協力する。</p> | | | | | | |
| <p>⑦ その他誘致に当たり解決すべき課題への対応策の案 ※上記の他、当該施設の誘致の提案にあたって、解決すべきと考えられる論点とそれへの対応策を記述してください。</p> | <p>特になし</p> <p>※岩手県意見 本申請は、森林県いわてを打ち出し、岩手県での総合的な研修の実施を検討し、2箇所について誘致を希望しているものであるが、国において何らかの課題があり、まとまった移転が困難である場合は、総合研修機関の移転を先行して行うなど、柔軟な対応を期待するものである。</p> | | | | | | |
| <p>⑧ 関係する市町村の意見等 ※当該誘致について、関係する市町村の意見等を記述してください。</p> | <p>主に生産に携わる久慈市、主に加工、全国出荷に関わる北上市ともに、同研修所の誘致に強い希望を持っており、研修施設や職員宿舎の提供にも最大の協力を惜しまない意向である。</p> <p>いずれの自治体も、政府機関移転は、東日本大震災からの復興のシンボルにもなると考えており、被災地岩手で進む人口減対策にも大きく貢献することから、強い期待を寄せているところ。</p> | | | | | | |
| <p>⑨ 道府県等の提案団体の担当課長</p> <table border="1" data-bbox="228 1585 786 1738"> <tr> <td>職名・氏名</td> <td>政策推進室政策監兼ふるさと振興監 高橋勝重</td> </tr> <tr> <td>電話番号(直通)</td> <td>019-629-5510</td> </tr> <tr> <td>電子メールアドレス</td> <td>katsushige@pref.iwate.jp</td> </tr> </table> | 職名・氏名 | 政策推進室政策監兼ふるさと振興監 高橋勝重 | 電話番号(直通) | 019-629-5510 | 電子メールアドレス | katsushige@pref.iwate.jp | |
| 職名・氏名 | 政策推進室政策監兼ふるさと振興監 高橋勝重 | | | | | | |
| 電話番号(直通) | 019-629-5510 | | | | | | |
| 電子メールアドレス | katsushige@pref.iwate.jp | | | | | | |
| <p>⑩ 道府県等の担当団体の担当者 ※今後、当事務局との連絡を担当する者を記入してください。</p> <table border="1" data-bbox="228 1783 786 1930"> <tr> <td>職名・氏名</td> <td>政策推進室 主査 熊谷正信</td> </tr> <tr> <td>電話番号(直通)</td> <td>019-629-5508</td> </tr> <tr> <td>電子メールアドレス</td> <td>m-kumagai@pref.iwate.jp</td> </tr> </table> | 職名・氏名 | 政策推進室 主査 熊谷正信 | 電話番号(直通) | 019-629-5508 | 電子メールアドレス | m-kumagai@pref.iwate.jp | |
| 職名・氏名 | 政策推進室 主査 熊谷正信 | | | | | | |
| 電話番号(直通) | 019-629-5508 | | | | | | |
| 電子メールアドレス | m-kumagai@pref.iwate.jp | | | | | | |

移転提案に関する検討シート（行政機関等）

提案者：岩手県

| 機関名 | 項目 | 道府県の説明 | 備考 |
|------------------|---|--|----|
| 林野庁 森林技術総合研修所 | その機関の任務の性格上、東京圏にしなければならぬか | <ul style="list-style-type: none"> ●地方でこそ発揮できる研修 森林技術総合研修所は、国会対応等の想定も低く、東京圏に立地する理由は低いと考えられる。 研修機関の特性上、研修対象が豊富にある地域での実施がより効率的であり、生産から伐採、加工、販売まで一貫した森林産業が機能している岩手県においてこそ、実地に即した有効な研修が可能である。 ●地方の中の東北、岩手 東北地方の5県(宮城を除く5県)は、林野面積上位10位以内であり、全国シェアの2割(18%)を占めるほど森林資源に恵まれている。 森林・林業再生プラン(H21農林水産省)では、日本の木材自給率50%の達成を目指しているが、この達成には、東北地方の林業の活性化が欠かせない。 なかでも岩手は、林業経営体数、林業産出額で東北一を誇っており、日本林業、東北林業の中心地として研修機関の立地に最適である。 | |
| | 機関の任務に照らした成果の確保・向上、行政運営の効率の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林技術研修の対象となる産業の集積 森林面積・林業経営体数全国2位、林業産出額全国第5位と木材生産に関する条件が豊富であることに加え、パルプ製品(東北木材100%)、合板製造(国産材100%)などの木材関連産業が集積しており、産業と一体となった研修が可能。 ●業務運営に係る国費やコスト 研修業務の実施に当たっては、事務室を含めた研修施設について、岩手県及び誘致希望自治体が有するストックの提供が可能であり、現在、東京圏で実施しているコストを大幅に超えることは少ないものと想定される。 | |
| | 地域への波及効果・なぜその地域か | <ul style="list-style-type: none"> ●森林県岩手の強みを活かした効果的な研修体制 岩手県は、全国有数の森林県であり、かつ、生産から伐採、加工、販売までの一貫した産業構造が構築されている点において、東京圏ではできない、実地に即した研修が可能である。 また、本県への森林技術総合研修所の移転が実現した場合、林業や木材加工に関する技術成果が、地域の林業者や加工業者により広く普及することが期待され、森林県である本県のポテンシャルを生かした地方創生の新たな取組となることが期待される。 ●国の研究成果等を活用した技術の普及 当該機関では森林総合研究所や各県の研究成果、研修を実施する人材等の情報を集積していることから、これらを活用し、県内の各地域にいち早く技術等の普及が可能。 また、岩手大学や森林総合研究所東北支所においても様々な研究に取り組んでおり、これらの機関との連携を図ることができる。 こうした研究成果等の共有により、国、岩手が有する総合的な技術普及が可能となる。 | |
| | 条件整備 | <ul style="list-style-type: none"> ●既存ストックを最大限活用した移転条件の提示 生産、伐採の林業を中心とした久慈地区、加工、販売の産業を中心とした北上地区いずれにおいても、地区が有するストックを可能な限り活用し、コスト増を押しさえした移転を実現。 久慈地区：山形文化交流センター、平庭山荘(宿泊付研修施設)、新山根温泉べっぴんの湯(宿泊付研修施設) 北上地区：和賀庁舎(無償リースも可)、ふるさと体験館(宿泊付研修施設) ●職員の居住環境にも配慮 久慈地区においては、閉校した小中学校の職員宿舎等を有し、良好な通勤アクセスが可能。 北上地区においては、研修施設として提供可能な庁舎から5分ほどに柏野住宅団地を有し、通勤アクセスに良好な住居環境の提供が可能。 | |
| その他特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> ●全国各地からの良好なアクセス性 岩手は、東北新幹線、東北縦貫自動車道など、優れた高速交通体系を有しており、陸路での東京圏からの移動も容易である。 また、県中部に花巻空港を有し、北海道や関西、九州からのアクセスも確保されていることから、全国からの参集においても十分対応が可能である。 ●良好な居住環境 賃貸住宅を借りる場合であっても、首都圏に比較し低廉な家賃での居住が可能である。 | | |

政府機関の移転に関する提案企画書

(独) 森林総合研究所
漆に関する研究機関

平成27年11月

岩手県

二戸市の地理的条件

(北岩手の交通拠点)

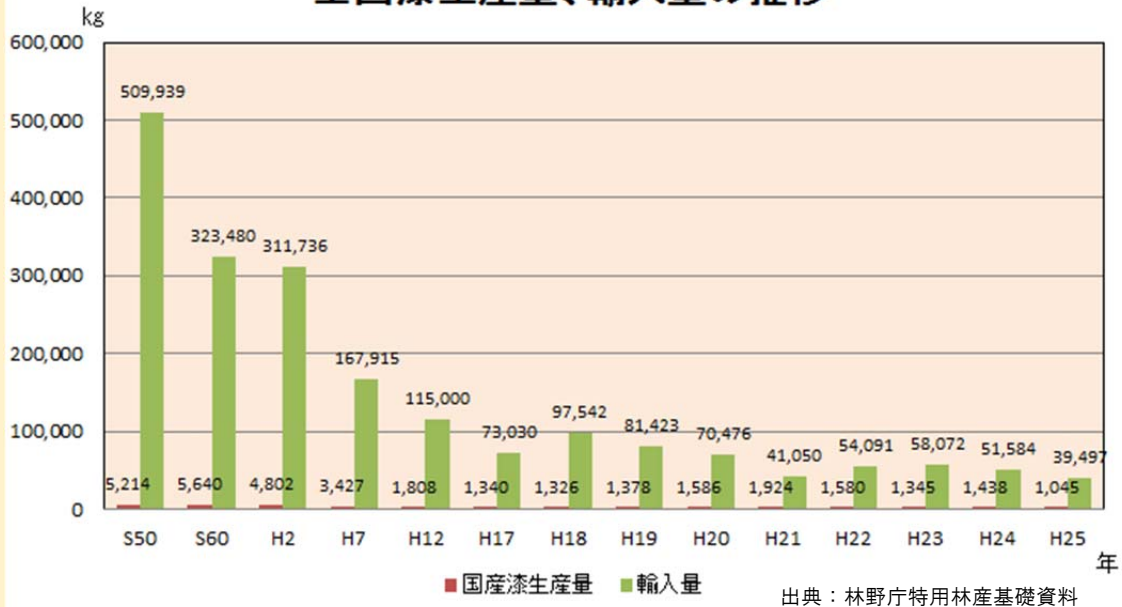


| |
|--------------------------|
| ◆東北新幹線 |
| 東京 ⇄ 二戸 2 時間 50 分 |
| 仙台 ⇄ 二戸 1 時間 10 分 |
| ◆高速道路 |
| 川口 JCT ⇄ 浄法寺 IC 578.2km |
| 仙台宮城 IC ⇄ 浄法寺 IC 245.8km |
| 花巻空港 IC ⇄ 浄法寺 IC 103.3km |
| 三沢十和田下田 IC |
| ⇄ 浄法寺 IC 130.2km |
| ◆飛行機 |
| 名古屋 ⇄ 花巻 1 時間 10 分 |
| 大阪 ⇄ 花巻 1 時間 25 分 |
| 羽田 ⇄ 三沢 1 時間 15 分 |

国内及び二戸市の漆生産の状況

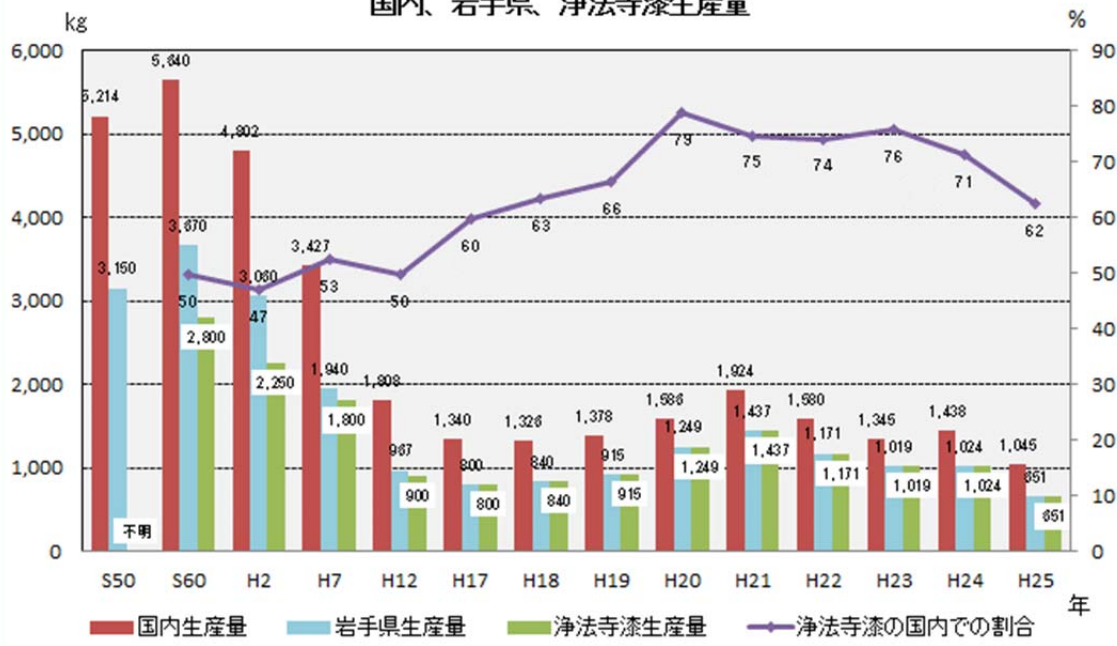
国内における国産漆の割合は3%程度

全国漆生産量、輸入量の推移



浄法寺漆は国内生産量の約7割を占める

国内、岩手県、浄法寺漆生産量



国産漆の使用拡大の動き

国宝・重要文化財への使用拡大

- ◆平成 27 年 2 月、文化庁が国宝・重要文化財の保存修理において国産漆の使用拡大を通知
- ◆平成 30 年度には、下地を含めて全面的に国産漆使用を原則化
- ◆今後国産漆の使用量が増加するため、供給体制の確立が急務
- ◆国産漆生産量の増産に向けて、漆林の適正管理、育成に関する調査研究と漆林の造成の両面から取り組むことが重要

日光二社一寺への浄法寺漆供給

- ◆平成 19 年から日光二社一寺の大改修に浄法寺漆を供給
- ◆平成 26 年度は生産量を上回る約 900kg を出荷
- ◆過去には、鹿苑寺金閣や中尊寺金色堂の修復にも供給



日光二社一寺の修復作業の様子

浄法寺漆の生産量を増やす取り組み



浄法寺漆の漆林

漆の増産に向けた取り組み

①漆林の造成

昭和 56 年から国有林を活用した分収造林による漆林を造成

②漆苗木補助制度

平成 18 年から漆苗木補助制度を活用した漆木植栽の推進

③ふるさと文化財の森システム推進事業（文化庁）

平成 19 年に始まった同推進事業で「浄法寺漆林」を「ふるさと文化財の森」第 1 号に認定

この結果、漆林面積 114ha
漆木本数 197,170 本 となっている。

さらに、今後漆林面積の拡大に取り組む。

浄法寺漆を普及させる取り組み

へのブランド海外発信事業



平成 25 年度から 3 年間、ニューヨークで漆と酒のプロモーションと日本食レストランに普及するための取り組みを展開

ふるさと名物応援宣言

中小企業地域資源
活用促進法に基づく

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

ふるさと名物
Furusato Meibutsu

岩手県二戸市
が応援するふるさと名物

「浄法寺漆」
～漆と地酒(W-Japan)と伝統食～
五感で堪能する
二戸物語(Story)

平成 27 年 9 月 14 日に、日本文化を支える浄法寺漆と関連する商品をふるさと名物として応援することを宣言。

二戸市が目指すもの

- ①日本の国宝・重要文化財を守る国産漆の供給拠点
- ②国産漆 100%使用の漆器づくりや漆掻き職人の育成による定住促進
- ③漆と関連する商品を含めた産業振興
- ④日本が誇る漆文化を広く世界に発信するための活動展開

国を挙げて取り組みが必要なもの

- ①全国において漆採取量を増やすため漆木の造林
- ②文化庁・林野庁・地方が協調し国産漆対策を推進
- ③漆木の育成・管理・採取に関する基礎的研究



調査研究のためには漆林面積が多い当市が適地

※漆に関する森林総合研究所との共同研究実績

- ・ 「地域活性化を目指した国産ウルシの持続的管理・生産技術の開発」

※岩手県独自の漆研究

- ・ 岩手県工業技術センター
～企業と連携した漆活用研究



うるしの里 二戸市

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※ 記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別紙1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

| | |
|--|---|
| ① 道府県等の提案団体の名称 | 岩手県 |
| ② 関係市町村の名称 | 二戸市 |
| ③ 誘致を希望する政府関係機関の名称 ※まとまりのある一部分の組織・機能の移転や地方拠点の設置を希望する場合はそのことが明確に分かるよう記載してください。 | 国立研究開発法人 森林総合研究所のうち漆に関する機関 |
| ④ 誘致先の予定地 ※住所、面積、交通アクセス等当該予定地の現況を記載してください。 | 二戸市 福岡浄法寺高校を活用 住所:岩手県二戸市浄法寺 交通アクセス:東北新幹線二戸駅、東北自動車道浄法寺IC |
| ⑤ 誘致の必要性・効果 ※以下のア、イの内容について必ず記載してください。 ア 地方版総合戦略の重要な要素であること。 当該地方公共団体の総合戦略の重要な要素と、誘致する機関の業務・機能とが密接に関連し、総合戦略の目標達成にとって当該機関の移転が重要な要因となるものであること。また、例えば研究機関の移転であれば、特定分野の産学官の研究集積又は当該分野の関係産業の集積がなされている等、現状において一定の強みを持つものであること。(併せて地方版総合戦略の案の該当部分を参考資料として添付してください。) イ 国の機関としての機能確保 当該機関が現在地から当該道府県に移転することにより、国の機関としての機能が確保でき、運用いかんによってはむしろ向上することが期待できること。(例えば、移転により当該道府県以外の道府県の利便性が悪化し、国全体としての機能が低下しないか、移転により現在機能が集積していることの強み・メリットを損なうことにならないか等の問題点があったとしても、それを上回るだけの移転のメリットがあるか、など。) | ア 本県二戸市浄法寺地区で生産される浄法寺漆は、鹿苑寺金閣や中尊寺金色堂などの文化財のほか、平成19年からは、日光二社一寺の修理に使用されてきた。 また、文化庁は、国宝・重要文化財の保存・修理において、国産漆の使用拡大を全国に通知しており、今後、国産漆の増産が急務となっている。 浄法寺地区は、日本の漆生産量の7割を占め、日本で最も資源に恵まれていることから、増産のための研究に最良の地と言える。 イ 森林総合研究所には、漆のみを専門とする機関は存在しないことから、新たに漆部門を独立させ、あるいは漆部門を含む全体組織を移転させることとなる。 同地区は森林研究にとって欠かせない森林資源が豊富に存在しており、漆の増産研究をはじめ、幅広い総合的な森林研究が可能である。 |
| ⑥ 誘致のための条件整備の案 ※少なくとも、以下のことについて、誘致自治体による協力のあり方を含めた条件整備の案を示してください。 ア 施設の確保等 移転先の施設の確保・設置のための具体的な条件整備の案を示すこと。 イ 職員の居住環境確保への協力 職員の居住環境の確保について、国又は独立行政法人等に協力すること。 | 既存ストックの有効活用により、万全の受入態勢で迎えたい。 ア 移転先の施設 平成27年度末で閉校となる福岡高校浄法寺校の活用が可能。 イ 職員の居住環境確保への協力 市内空き家を職員住宅に活用するなど、移転の場合は、全面的に協力する。 |

別紙様式 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案

※ 記入にあたっては、「政府関係機関の地方移転に係る道府県等の提案募集要綱」(別紙1)を参照してください。また、適宜、参考資料を添付してください。

| | |
|---|---|
| <p>⑦ その他誘致に当たり解決すべき課題への対応策の案 ※上記の他、当該施設の誘致の提案にあたって、解決すべきと考えられる論点とそれへの対応策を記述してください。</p> | <p>特になし</p> |
| <p>⑧ 関係する市町村の意見等 ※当該誘致について、関係する市町村の意見等を記述してください。</p> | <p>二戸市は、かねてから「漆を活かしたまちづくり」を展開しており、文化庁が国宝や重文の修復に100%国産漆を使用するの方針を打ち出したことを追い風に、更に漆を活かしたまちづくりを展開することとしている。 今回の誘致希望の実現は、漆産業の振興やそれに伴う浄法寺漆職人の誇りを向上させ、若手後継者の育成にも繋がり、地域振興の鍵と考えており、二戸市からも全面的な協力の申し出を受けている。</p> |
| <p>⑨ 道府県等の提案団体の担当課長</p> | |
| <p>職名・氏名</p> | <p>政策推進室政策監兼ふるさと振興監 高橋勝重</p> |
| <p>電話番号(直通)</p> | <p>019-629-5510</p> |
| <p>電子メールアドレス</p> | <p>katsushige@pref.iwate.jp</p> |
| <p>⑩ 道府県等の担当団体の担当者 ※今後、当事務局との連絡を担当する者を記入してください。</p> | |
| <p>職名・氏名</p> | <p>政策推進室 主査 熊谷正信</p> |
| <p>電話番号(直通)</p> | <p>019-629-5508</p> |
| <p>電子メールアドレス</p> | <p>m-kumagai@pref.iwate.jp</p> |

移転提案に関する検討シート（研究機関）

提案者：岩手県

| 機関名 | 項目 | 道府県の説明 | 備考 |
|-------------------------------|--------------|--|----|
| 国立研究開発法人 森林総合研究所のうち漆に関する機関 | 研究能力の確保・向上 | <ul style="list-style-type: none"> ●日本一の国産漆生産量 岩手県二戸市浄法寺地区は、国産漆の生産量の約7割を占めており、ウルシオール含有率が高い良質な浄法寺漆は、世界遺産である中尊寺金色堂や日光二社一寺の修理に使用されている。また、二戸市を含む岩手県北部、隣接する青森県南部、秋田県北東部には、漆木以外にも広葉樹をはじめとした多様な森林資源が豊富に存在しており、「漆」を中心にしながら、広いフィールドを活かした森林全般の研究が可能。 ●研究機関との連携による職人の誇りの向上・若手後継者の育成 移転によって、国内最高峰の技術を要する漆掻き職人（漆の質は漆掻き職人によって違う）と緊密に連携した研究が可能であり、より良い漆の生産によって、職人の誇りや所得水準、漆のさらなる魅力の向上が図られ、大きな課題である後継者不足の解消に資することが期待できる。 また、岩手県工業技術センターや岩手県林業技術センター、岩手大学農学部等の関係機関との連携による研究も可能。 | |
| | 研究成果活用の確保・向上 | <ul style="list-style-type: none"> ●国産漆の使用拡大の動き 平成27年2月、文化庁は国宝・重要文化財の保存・修理において国産漆の使用拡大を全国に通知したところであり、また、平成30年度には、下地を含め、全面的に国産漆使用を原則化するとの方針を示している。 移転によって、当地区での増産等に向けた継続的な研究が可能となり、10年、100年後も見据えた漆(japan)の供給体制の確立に寄与し、世界に誇る日本(JAPAN)の文化財保存に貢献することが期待できる。 | |
| | 地域の産業等への波及効果 | <ul style="list-style-type: none"> ●漆を活かしたまちづくり 県と市が連携し、浄法寺漆認証制度による浄法寺漆のブランド化の推進や、うるし祭り・漆サミットなど、漆を活かした「うるしの里づくり事業」を展開しており、移転によってさらなる漆を中心としたまちづくりや漆産業の拡大に期待ができる。 ●地域に根付いた伝統産業 浄法寺漆を使った「浄法寺塗」は国から伝統的工芸品に指定されており、当地区の特徴的な産業となっている。研究機関の移転は、地域の漆職人や産業関係者に誇りを持たせるとともに、情報発信機会の増加も期待でき、新規販路開拓や高付加価値化(ブランド化)の推進に繋がる。 | |
| | 運営の効率の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ●本県の試験研究機関や大学との連携 本県に設置されている、岩手県工業技術センターや岩手県林業技術センター、岩手県産業技術短期大学及び岩手大学との共同研究や研究成果の共有により、より能率的な研究が可能となる。 また、盛岡市には森林総合研究所の東北支所が存在しており、研究所内での連携も密に行うことが可能。 ●東北新幹線、東北自動車道等の恵まれた交通環境 当地域は、東北新幹線二戸駅が整備されており、東京都までは約3時間、仙台市までは約1時間程度でアクセス可能であるほか、東北自動車道浄法寺インターチェンジも整備されており、関係機関との連携も容易に行うことが可能。 | |
| | 条件整備 | <ul style="list-style-type: none"> ●既存ストックを有効に活用 移転実現の際には、福岡高校浄法寺校を研究施設として提供することについて具体的な検討が可能。（同校舎は、今年度末に閉校となるため、一定の整備により迅速な移転が可能。） ●職員の居住環境 福岡高校浄法寺校の職員官舎や市内の空き家の活用など、職員の居住環境を確保することが可能。 | |
| その他特記事項 | | | |